

平成19年(2007年)10月10日 大糸タイムス報道

住民側さらに公開質問 白馬のごみ処理めぐり

北アルプス広域連合が白馬村飯森を建設候補地としたごみ処理施設建設計画で、白紙撤回を求める住民団体でつくる「白馬村新ごみ処理施設を考える連絡協議会」(宮田温巳会長)は9日、9月議会一般質問の村長答弁についての反論や、村の地区住民懇談会について指摘する公開質問状を同村に提出した。1週間をめぐり回答を求めている。

一般質問については、小林英雄議員の質問に対する太由紘熙村長答弁について、同会の提出した署名を「真摯(しんし)に受け止めている」とした点などで答弁と実態が矛盾しているとし、特定住民への事前説明があった点などが民主主義に反していると批判。また、答弁中で同団体の名を出し批判したとして、謝罪を要求し、計画の白紙撤退を求めた。

予備調査について、同会は候補地は活断層の災害を予測できる範囲にあることは明らかとし、専門家を入れなければ判断がつかないとした答弁の根拠を尋ねた。

村が身近な村政のため開催したとしている地区住民懇談会について、「事実上はごみ問題の説明会だった」と主張し、会議録の公開や、その中で出たとされる賛成派の住民や団体を同会で計画している公開シンポジウムに紹介するように求めた。